

吉田文化会館だより

第140号
2024年2月

第36回 笠岡市人権文化祭を開催！！ テーマ「伝えたい人権の大切さを」



人権文化祭は、吉田文化会館や教育集会所、各団体などで行われている学習会や講座、また、小中学校での人権学習会の成果をご覧いただき、市民一人一人の人権が尊重されるまちづくりを進めるため、毎年開催しています。

講座生や児童・生徒が、「人権の大切さを身近に感じていたきたい」との思いをこめて作品を制作しています。

また、地域の皆さんによる「うどん」「ドーナツ」などの「ふれあいコーナー」などもあります。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

日時・場所

●第1会場

吉田文化会館

2月16日(金) 9時～19時

2月17日(土) 9時～16時30分

●第2会場

吉田小学校体育館

2月16日(金) 13時～17時

2月17日(土) 9時～16時

内容

●保育所、幼稚園、小・中学校、吉田文化会館の講座、各種団体による作品展示や学習成果の発表

●市内小・中学校の人権教育に関する作品展示

●岡山県・笠岡市人権啓発ポスター優秀作品展示

●「人権の花」運動の写真展

●市内福祉施設、福祉団体の作品展示

●人権教育や啓発のためのパネルの展示

●各種団体による出店販売

問合せ

人権推進課

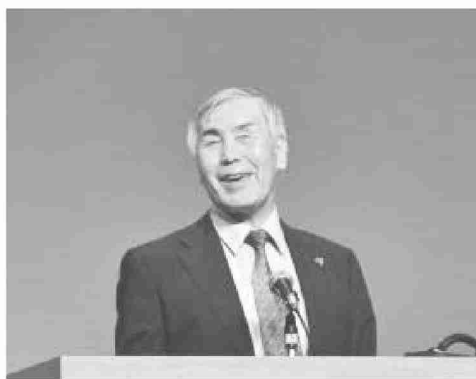
吉田文化会館

☎(69)2120
☎(65)1069

人権を考えるつどい講演会

竹内昌彦さん(認定NPO法人 ヒカリカナタ基金理事長)

「私の歩んだ道～見えないから見えなかったもの～」



て来る子どもたちの中に、手術をすれば見えるようになる子がたくさんいることに気付き、手術費用を集めるために「ヒカリカナタ基金」を設立し、これまでに771人の子どもの目が見えるようになりました。

日時・内容 2月17日(土)

13時30分 人権に関する成果発表
14時 講演会

場所 吉田小学校体育館

申込 氏名、住所、電話番号を、

電話、FAXで人権推進課に申

込または、市ホームページの申

込フォームから申込。

※左記QRコードからアクセス

してください。

締切 2月9日(金)

その他 手話通訳、要約筆記が

あります。

申込・問合せ 人権推進課

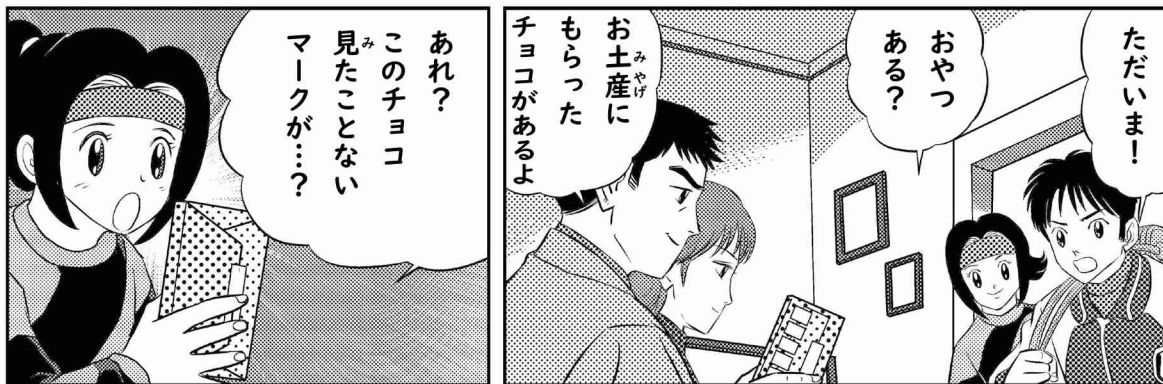
☎(69)2120

FAX(62)5767

※詳細は市ホームページで

ご確認ください





それはフェアトレードの認証マークだよ

フェアトレードとは
開発途上国の原料や製品を適正な価格で

継続的に購入することによって
立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す
「貿易のしくみ」のことなんだ



国際フェアトレード認証ラベル

フェアトレードは
国連のSDGs
(持続可能な開発目標)の
17の目標達成に
寄与すると
言われているのよ



最近、「フェアトレード」という言葉を聞いたことがある人は多いのではないだろうか。

国際フェアトレード認証ラベルは、製品の原料が生産され、輸出入、加工、製造されるまでの間に、国際フェアトレードラベル機構が定めた基準が守られていることを示しています。対象製品はコーヒー、カカオ、コットン、紅茶、バナナなど多岐に渡ります。

原産地である開発途上国では、①正当な対価が生産者に支払われない、②子どもが学校に行けず働かされる、③必要以上の農薬が使用され環境破壊や健康被害をもたらすなどの問題が起きている場合があります。

フェアトレードによって、原料生産から販売まで公平な取引が行われ、商品に関わるすべての人の人権が守られています。買うだけで、労働者を貧困や飢餓から救い、生産地の環境を守ることもつながります。身のまわりにあるものを、ぜひチェックしてみてください。

人権まんが説

笠岡市人権週間のつどい「上野千鶴子先生」講演録

「おひとりさまでも最期まで住み慣れた家や地域で」

12月4日から始まる人権週間に先立ち、11月26日に開催した講演会の一部をご紹介します。

「家族」の変化

内閣府がまとめた男女共同参画白書に家族の姿の変化が掲載されていて、令和2年の時点で単身世帯が38%で最も多く三世帯に一世帯以上が単身者です。年代別では、単身の高齢者も年々増えていて、今後も元々家族を持たない人や、家族がいても離婚や死別した人、また、家族に頼らない人が増えてくると考えられます。このように時代の変化とともに人の考え方も変わり、独居高齢者が増えたので「在宅ひとり死のススメ」という本を出しました。一人で亡くなることを孤独死とは呼ばれたくないので「在宅ひとり死」という言葉を創りました。これまで、「死」は、「家族の中の死」とされてきました

が、今では、介護保険を使い最期まで自宅で暮らすことができるし、個人主義が広がり「自分のことは自分で決めたい」という価値観を持った高齢者が増えてきたので、死に方を自分で決める「死の個人化」が進んでいます。多くの方が終活をするのもこのためです。

また、かつては、高齢者のひとり暮らしというと「おかわいそうに」とか「おさみしいでしょう」と同情されたものですが、おひとりさまブームが来ると独居高齢者への偏見はなくなり、皆さんが胸を張って「おひとりさまです」とおっしゃいます。

生活満足度

大阪の辻川覚志医師が、60歳以上の高齢者500人を対象に、生活満足度調査をした結果をご紹介します。生活満足度が一番高いのは、慣れ親しんだ家で信頼のおける友人など付き合っている独居高齢者です。同居の二人世帯、これは夫婦二人か親一人子一人ですが、この世帯の満足度は一気に下がり最低になります。この世帯は異文化

が激突しますので、ペットを飼うなど間に緩衝材があったほうがいいですね。これが三人・四人世帯と家族が増えると関わる相手も増えてくるのでストレスが減り、満足度は上がってきます。さらに、どれくらい悩み事があるかの調査では、一人世帯は悩みが少なく、家族の人数が増えるとも悩みも増えてきます。ですから、おひとりさまは生活満足度が高く悩みが少ないので「最高」だと思えます。と言っても一人暮らしに不安もあるでしょうが、不安はその原因を解決すれば解消できるし、さみしさは時間が経てば必ず慣れます。辻川先生が提唱する老後を満足に過ごすための3条件は、

①慣れ親しんだ家から離れない
②「金持ちより人持ち」ということで信頼のおける友人を持つ
③家族に気を遣わずに自由に暮らす、ということ、老後は「おひとりさま」が最高という結論



在宅ひとり死

になります。

人生の最期を自宅で迎えたいと希望する高齢者は8割に上ります。一昔前は、要介護になったら家族が施設に入所させていたが、現在では、介護現場での経験値が積み上がり在宅ケアは確実に進化していますから、要介護になっても自宅で最期を迎えることができます。介護職の中には、「ご本人の意思さえわかれば、私たちがおひとりさまを支えてお見送りすることができま」と断言する方が増えていきます。介護保険23年の歴史の中で、介護職の方が現場で積み上げた経験値とスキルの進化は、日本の大きな財産だと思っています。

介護保険制度

23年前に誕生した介護保険には欠陥が多くありました。しか

し、介護保険のおかげで独居や認知症の方の在宅看取りができるようになりましたし、将来、自分が老いたときにも、老後の安心を保証してくれます。今、その介護保険の改善が史上最悪の事態に直面しています。介護保険は、かつて家族が行っていた介護を社会が担うという画期的な制度ですが、改悪されると再び家族が担うようになるでしょう。高齢化が進み介護力が失われた高齢者の在宅生活を家族が支えることは困難ですし、介護離職や高齢者虐待が増えることが予想されます。日本の宝である介護保険制度を皆さんのお力で守っていただきたいと思っています。これが私の一番の願いです。

さいごに

超高齢社会に入った現代で、私たちは誰も老いを避けることはできません。ですから、「弱者になっても安心できる社会を」、「要介護になっても安心できる社会を」、「認知症になっても安心できる社会を」、「障がい者になっても殺されない社会を」創りたいと強く思います。